

## 青年に働きがいある仕事を

### —「就職黒書」で実態を告発—

今年短大を卒業し一応は保育の仕事についたが1年限りの臨時。正規雇用は同期全体の2割程度しかいない。来年の心配をしながら毎日の仕事をしている—「私たちの声を聞いてください」と訴える青年労働者の叫びを、日本民主青年同盟新潟県委員会が「青年就職黒書—新潟県版—」としてまとめました。同委員会は「黒書」づくりと連動させて雇用問題学習会などを開き、人間らしい労働をとりもどすためのネットワークづくりをめざしています。以下「黒書」からいくつかの事例を紹介します。

— 研究所所員・片岡 弘

#### あすの自分さえわからない不安

正社員になりたいのに

◇  
今年卒業した短大の同期は、一応みんな保育士の仕事についたが、ほとんどがパートや短期(二年)で、正職員になった人は全体の二割程度。そのため自分も含め、将来・来年の心配をしながら仕事をして、就職活動もするという状態。(新潟市・保育士男性)

◇  
半年前、食品加工工場で見習いの時に首になり、就職活動中。職安には毎週二、三回通っているが、求人の方は一日三、四時間程度のバイト・パートの求人、新規求人は一ヶ月に一回あるかないかで、あるとしてもパート求人。そのため、求人票もだれも行きたがらない残りものしかない。三〇歳を過ぎていたので正社員しか選べない。(津南町・男性)

◇  
私は耳が聞こえません。コンピューター専門学校を三月に卒業予定で現在就職活動中ですが、障害者の求

人は少なく、もつと紹介してほしいと思います。事務職あるいは製造業が希望。夢は、障害者と健常者の心をつなぐ架け橋になって、色々なコミュニケーションを広げたいこと。(新潟市・19歳女性)

◇ 「自分」の存在、自信まで奪われる

二九歳フリーター。高校を卒業してからずっとフリーター。勤めていた喫茶店を先月クビになり、アパートの家賃は払えたが、電話代が払えず電話を止められている。新潟市にきたのも仕事を探すために求人へのピラなどがなく探しに来た。引きこもりに近い状態になつている。社会の状態、政治に相当の怒りをもっている。(新潟市・29歳女性)

◇  
一年間いくら就職活動をして仕事が見つからなかった時、「自分に能力がないのではないか」「自分は必要な人間ではないのでは」と追い詰められ、「どんな仕事でもいいから」と家電製品の下請け工場への派遣(請負?)の仕事を選んだ。しかし半年たった契約更新のときに「今よりも給与水準を下げて契約を更新した

い。それがいやなら契約はしない(クビ)」と言われ、またいつ就職先が見つかるかわからない就職活動をするくらいならと、減給を仕方なく受け入れて契約した。(五泉市・男性)

十年後の自分が見えない

◇ 健康も未来も奪われる労働者

◇  
本日は福祉の仕事希望しているが、なかなか採用されずに一般の会社に入った。土曜日もすべて仕事なので、平日に公休を取ることにはなっているがなかなか思い通りに休みが取れない。有給休暇も、人手不足ということもあり取りづらい。自分の仕事と同じ担当の者はもう一人だけなので負担がかなり重い。ピークの時(一年のうち四、五カ月は、早くても夜の十一時、遅いと深夜一時、二時になることがほとんどの状態)。最近、足に痺れがでてきて階段の上り下りも手すりを使わなくてはいけないくらい。しかし仕事が忙しくて病院にも行けない。

その後、腎不全を発症し、二カ月の入院と手術。退院後、重度の障害を負ったことから(体力勝負の印刷

担当から)別の部署に変更する約束だったが、「次の人が育つまで」と部署の変更がされないまま働き、アルバイトで倒れ、意識不明のまま救急車で運ばれる。労働者の体を気遣うことをしない会社にいると殺されると家族からも言われ、結局その会社をやめることになった。(新潟市・34歳印刷業男性)

◇ スーパーの梱卸の仕事をしていたが、早出、残業が当たり前、長時間重労働で腰を痛めた。しかし病院に行く時間さえなく、放っていたら椎間板ヘルニアになり歩くことさえできなくなつて入院。結局、仕事を続けられずやめることになったが、スーパーは労災認定もしてくれず「自主退職」という形に。腰の爆弾があるために仕事も限定され、二年以上も求職活動中。(栄町・男性)

## 社会に出る第一歩で夢を奪われる

### 学業を奪われる就職活動

◇ 三年生の終りから就職活動がはじまり、ゼミに顔を出さない人も少なくない。大学四年間の集大成として

納得のいく卒業論文に取り組む人は、就職活動の時間が少なくなるために卒業しても就職先がない。なかには就職のために、卒業せず留年する人もいる。その一方で、内定をもらうまで就職活動を頑張った人で、ゼミや卒業論文がまともにできずに単位を落として卒業できず、結局内定取り消しになる人も少なくない。中退して仕事についた人もいたが、「大卒」ではないので給料を大幅に減らされた。就職活動と学業の両立が本当に難しくなっている。(新潟大学・人文四年女性)

◇ 三年のときから「就職セミナー」がくりかえし行なわれ、「面接の受け方」や「就職試験の対策」などをやらされるにつけて、「何のために自分は就職するのか」「大学にきて何を勉強しているのか」わからなくなり、就職活動への意欲がそがれてしまった。今は、夢をかなえるために、在学中から通っている専門学校に、バイトをしながら通うことを考えているが、親からは「しっかりと正職についてほしい」と反対されている。(新潟経営大学・四年男性)